

## 口は健康のもと Vol.173

### 歯を失ったまま放置すると

#### 健康に影響の恐れ

成人では一般に親知らずを除き上下・左右あわせて28本の歯がありますが、加齢と共に歯の本数は少なくなっていきます。平成23年に実施された厚生労働省のデータでは、60歳代で6本程度の喪失歯数が70歳代には10本を越えてしまうのが日本人の平均であるようです。

失った歯の本数がごく少ない場合にはそのまま放置することがあり得るかもしれませんが、長い年月を経るに従い、さまざまな影響が現れます。食事を摂りづらくなったことにより、栄養バランスが崩れ、胃腸に障害を生じることが考えられます。また、話にくくなり、見た目も気になるようになれば、人付き合いが消極的になり、出歩く機会が減って社会生活に影響してしまうことも考えられます。

一方、口腔内においても歯を失ったスペースに向かって、隣の歯や噛みあう相手の歯が移動したり傾いたり歯並びに変化が起こります。このような変化は、噛む力を支える能力が低下し、清掃不良の原因となり、それらの歯も失う可能性を高めてしまいます。

歯を失った場合は放置せず、最寄りの歯科医院を受診することをお勧めします。



奥羽大学歯学部附属病院  
総合歯科 教授 関根 秀志

